

播磨灘



播磨灘に沈む夕陽

竜山石

高砂市で採れる竜山石は由緒ある石材です。世界文化遺産に指定された姫路城の石垣や、天皇一族及び古代豪族などの古墳の石棺には多くの竜山石が使われています。

江戸時代には姫路藩の専売品として鳥居・石垣・石段・護岸などが広く利用され、その後も美しく優れた建築資材として盛んに活用されました。

高砂市内にある生石神社のご神体は、「石の宝殿」として知られる竜山石の石造物です。石の宝殿は、日本の三奇のひとつとして数えられる謎の多い石で、いつ、誰が、何の目的のために造られたものなのか、いまだにわかっていません。

あらい浜風公園のエントランスには、帆掛け舟の形をした竜山石のモニュメントがあります。



風光



播磨灘に面する、あらい浜風公園では、風の方や光の力を利用してクリーンなエネルギーを生み出し、利用しています。風の方で電気をくみ上げる「発電風車」。風の方で地下水をくみ上げる「揚水風車」。光の方で電気をくみ上げる「ソーラーパネル」。高砂は、風の方ではしる帆船につかわれる帆布発祥の地です。それにちなんで、揚水風車の羽根は帆布の材質を使用しています。

あらい浜風公園誕生の軌跡



「白砂青松」で名高かった海岸線（昭和35年頃）



高砂成鉄線の開通（昭和44年頃）

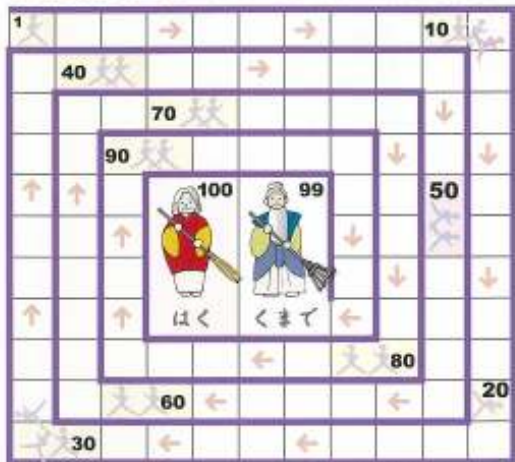
高砂の浜は、白砂青松で名高い風光明媚な場所として全国に名を馳せていましたが、開港前の埋め立てにより、浜は失われ、海辺は市民にとって遠い存在になってしまいました。あらい浜風公園は、市民からの強い要望を受け、公園に賛同する企業（神戸戸製鋼所高砂製作所と三登重工業高砂製作所）からの協力を得て、海辺で憩い遊べる空間をあらたに創り出したものです。



浜風ウォーキング

浜風ウォークは往復で1.6km
1往復で約80kcal消費できます

おじいさんが熊手を、おばあさんが帯を持った「尉と姥」の高砂人形は、「おまえ百（掃く）まで、わしゃ九十九まで（熊手）」というように、長寿夫婦の象徴として知られています。毎日のウォーキングは健康の秘訣。浜風ウォーク100往復にチャレンジしてみよう！



✓1往復するたびにチェックしてみよう！

●所在地●
兵庫県高砂市荒井町
新浜2丁目

●アクセス●
電車：山陽電鉄
荒井駅より徒歩20分
車：高砂駅前1番線250号
白新交差点より
約1.10分
※駐車場55台あり

●開園時間●
4月～11月（夏季）
6:00～20:00
12月～3月（冬季）
7:00～18:00

●お問い合わせ●
兵庫県 東播磨保健局
高砂土木事務所
TEL:079-421-1101(代)

高砂市 まちづくり部
都市計画課
TEL:079-443-9039

あらい浜風公園案内所
TEL:079-443-3319

公園面積 2.7ha
〒674-0044

あらい浜風公園

ARAI HAMAKAZE PARK



松

高砂は松で有名なところで、夫婦和合の象徴とされる、高砂神社の「相生の松」や荒井神社の「結びの松」、菅原道真公のお手籠えと言われる曾根天満宮の「曾根の松」などがあり、松は高砂市の木に選ばれています。あらい浜風公園の松は、この公園ができる前から植えられていたもので、幹の姿から、風の強さが感じられます。



尉と姥

「尉と姥」と書いて、「じょうとんば」と言います。イザナギ・イザナミの2神が尉（おじいさん）と姥（おばあさん）の姿になって、相生の松の前で夫婦のあり方を誓ったという高砂の言い伝えにちなんで池の名前をつけています。



ヤマモモ

ヤマモモは、近くに産地が限われないと実を結ぶことができないためプライダル都市高砂を象徴する木と言えます。海浜でも育つ強い木で生命力にあふれていることから高砂みなとまちづくり構想のシンボルとなっています。

<高砂みなとまちづくり構想>
高砂市臨海部の活性化を目的に
兵庫県と高砂市が協定 国庁



海・風・光・緑とのふれあいと学びの空間



浜風丸

高砂にゆかりのある帆船型の複合遊具
目の前に広がる播磨灘に向かって滑る
すべり台は最高



公園の入口から800m
きらきらと光り輝く海に浮かぶ上島
心地よく吹き寄せる浜風
カブよくて美しい緑
そんな空間にふれてみませんか



ふれあい花壇では、市民のみなさんが
オーナーになり、花壇づくりをしてい
ます
見るのも楽しいし、参加するのは
もっと楽しいかも
※花壇オーナーの申し込み
については
裏面の問合せ先へ



浜風ウォーク

足にやさしいゴムチップ舗装で
できている約800mの歩道
さあ海までレッツウォーキング!



浜風ステージ

播磨灘を一望できるスポット
半円形のステージでは
海をバックにミニコン
サートもできる



浜風の丘

浜風に吹かれて、播磨灘の景色の
うつろいを楽しむピュースポット



風のかや太陽の力
を利用して
エネルギーをつくり出し
公園内で利用しています



ソーラーパネル

自動車の通行ができる道です
駐車場は全部で3つあります
環境にやさしく、車道は雨水が地下に浸透する構
造になっていて、駐車場には芝生を使っています

海のしくみ

潮の満ち引きは、月と地球の間にある引力によっておこります。
海水が月のある方へ引き寄せられたところが満潮になり、反対
に少なくなるころは、干潮になります。
この浦舟池は海とつながっているため、潮の満ち引きで池の水
位が変わります。通常1日2回ずつ「満潮」と「干潮」がおり、
満月と新月の時にその差が一番大きくなります。

風の方

風力発電は、発電する時に二酸化炭素を排出しないクリーンな
エネルギーとして注目されています。
また、風の力を使うので、半永久的にエネルギーをつくり出せ
ることも魅力のひとつです。
発電風車で作られた電気も、公園内で有効に利用しています
また、風のかで地下水をくみ上げる揚水風車も活躍しています

光の方

太陽光発電も風力発電と同じく、発電時に二酸化炭素を排出せ
ず、エネルギーの元が枯渇しないのが魅力です。その上、小さ
な設備で発電ができるため、住宅でも十分利用でき、今後のコ
ストダウンに期待が集まっています。
あらい浜風公園では、トイレの屋根にソーラーパネルを設置し
ており、トイレの照明の電気をまかなっています。

海辺の植物

海辺は、海水や潮風の影響を強くうけるため、その環境に適
した植物しか生きていくことができません。
あらい浜風公園には、オオシマザクラ、シャリンバイ、ハマヒ
ルガオなど、耐塩性のある植物が多く植えられています。可憐
な花を咲かせる、兵庫県の花ノジギクや、イソギク、ハマギク
も海辺に育つ花です。



播磨灘

この浦舟池



真水と海水が交わることを汽水域とい
います。ここでは、どんな生き物が住むのだろう



ノジギク



ハマギク

この浦舟池

海とつながっていて、潮の満ち引き
で深さが変わる海水池
海水と一緒に魚やカニなど海の生き
物がやってくるかも



発電風車



せせらぎ水路

加古川の水が、岸辺の泉からせせ
らぎ水路、貯と姥池の間を循環し
ています。小さな魚やホタルなど
水辺の生き物を見つげられるかも

